

平成 30 年 12 月定例記者会見及び 11 月月例記者会見

1. 12 月定例記者会見

【 説 明 】

〔12 月議会案件〕

市長 議案の件数は全部で 9 件で、補正予算が 4 件、条例が 3 件、人事案件 2 件となっています。補正予算では、私立保育所運営等助成費で、「たかやまこども園」で病児保育を進めるということで、それに対する補助金を補正するのが 1 つめです。2 つめは、後程説明しますが、北大和の元グルメシティがあったところに「きたやまと保育園」という小規模保育園が今度整備されることになりましたので、それに対する助成費。最後に、全国的に風しんが、特に東京から中部地方にも拡大しているので、風しんワクチン等接種補助金を設けるものです。

条例ですが、公職選挙法が来年の 3 月 31 日に改正され、市議会議員選挙の候補者の作成するビラについても公費で負担するという改正がされましたので、法律の改正のとおり生駒市の条例も改正するものです。

【 質 疑 応 答 】

記者 エアコンについて追加で出されることはありますか。

市長 状況により追加提案で出すこともあります。

2. 11 月月例記者会見

〔風しん予防接種費用の助成〕

市長 風しんの予防接種費用の助成を、補正予算にも計上していますが、制度を整備していきたいと思っています。全国で風しんが流行しており、特に関東が多いのですが、少しずつ西へ拡大しています。風しんは感染しやすく、特に妊婦の方が感染すると子どもに障がいや病気が出てくるリスクが高いと言われています。予防接種をきちんと受けていない世代があるので、予防接種に助成を行うものです。

非常に難しいのは、以前にも風しんが流行った時期がありましたが、風しんのワクチンはどんどんうてばよいということではありません。国からも通達が来ており、ワクチンが足りないということです。大人がどンドン接種すると、子ども達が打つワクチンが不足する可能性があります。生駒市の助成制度でどうするかと考えたときに、ワクチン不足が懸念される中、小児の定期接種ワクチンの確保を考え、今回は緊急的な対応として、まず風しん抗体検査を受けていただき、その結果抗体価が低かった人にワクチンの助成をするという条件を付けざるを得ませんでした。この抗体検査は県で無料で受けることができます。ただ、抗体検査を受けてすぐに検査結果が分かるというのではなく、時間がかかるので手間ですが、この抗体検査を受けて、抗体価が低い人を対象として市の助成をするということです。これが一つ目の条件です。

追加の条件がさらにありまして、二つ目が妊娠している方はうてないので、今後妊娠を希望する女性本人、今妊娠している方の配偶者で抗体価の低い人のどちらかに当たる場合が対象。基本的には配偶者以外の方ともいろんなところで接触があるので、妊娠を希望している方本人が受けるのが一番いいのですが、稀なケースだと思いますが、いろんな体質の問題とかで妊娠を希望される女性でも打たないほうがよいと判断される場合もあるので、妊娠者の配偶者も助成対象にしたいと思います。

助成内容ですが、大きく 3 種類あり、風しん単独ワクチンと、はしかとの混合ワクチンいわゆるMRワクチンというのがあります。また、海外に行く方が接種するおたふくかぜを含めたMMRというワクチンがありまして、子ども達が接種するのは、MRワクチンで、これは子ども達のために確保しておいたほうがよいので、県は大人に対してはMMRワクチンを推奨しています。県の資料では、奈良県立医科大学付属病院と奈良西部病院はMMRを打てる所しています。生駒市立病院でも風しん単独ワクチンを持っているので、希望する方には接種していると聞いています。風しん単独ワクチンも入手が難しいようなので、ワクチンの確保を見ながらの助成になり、非常に難しいところではあります。抗体価が高いのにワクチンをどんどんうつというのは余り好ましくないで、まずは抗体検査を受けるというのを助成の前提条件としています。

風しんの被害から妊婦と子どもを守るという要請と、ワクチンが少ないので条件をつける必要性でこのような助成制度となりました。最近では箕面市や千葉市など、抗体価を条件として助成するところも出てきているので、それに合わせています。

【生駒市が厚生労働省健康局長優良賞を受賞】

生駒市のウォーキングマップの取り組みが今回表彰の対象となりました。ウォーキングマップの取り組みはどこの自治体でも行っていますが、生駒市の場合は、観光ボランティアガイドや健康づくり推進員連絡協議会の皆さんと一緒にコースの選定をしており、また、他ではマップを作って終わりというところも多いですが、観光ボランティアガイドや健康づくり推進員の方と一緒に歩くイベントを行うなど、丁寧に行ったことが一つの受賞理由になったと思います。詳細は健康課の方へお問い合わせください。

【今度こそ!? IKOMA サマーセミナー2018】

昨年度サマーセミナー2017 を行って大変好評だったので、2018 年からは実行委員会形式で、市民の皆さんも力を入れて取り組んでいましたが、非常に残念でしたが台風のため中止となってしまいました。しかし準備もしており、来年まで待てないということで、当初の半分のクラス数になりましたが、12 月 8 日に開催します。会場は1箇所だけとなり、コミュニティセンターで行います。実行委員の皆さんも非常に思いを持っており、面白い講座もありますので、是非ご取材ください。

【オリンピックメダリストによるレスリング教室】

今年度はレスリングです。ロンドンオリンピック銅メダリストの湯元進一さんに1月12日に来て頂いて、HOS生駒北スポーツセンターでレスリング教室を行います。湯元さんのプロフィールや内容は担当課にお問い合わせください。

【プロ野球・奈良県人会 野球教室の開催】

12月2日に体育協会滝寺体育館で、元プロ野球選手の奈良県人会の皆さんが今回は生駒市で野球教室を行って下さるということでございます。奈良テレビ放送のご協力を頂きながら生駒市と共同で行います。三浦大輔さんや阪神の関本賢太郎さんなど、関西ではおなじみの選手が来ます。子ども達もすぐよくこんでくれると思っています。募集は定員に達していますので、開催するというだけのアナウンスとなりましたが、当日の取材をよろしくお願ひします。

【左手のピアニスト 岡田侑子さんのトーク&コンサート】

「やまびこ講座」として開催します。一昨年「左手のピアニストのコンサート」を行いました、非常にご好評を頂きました。岡田さんは生駒市在住で、市内でも活躍されています。12月14日には「やまびこ講座」の中でピアノ演奏とトークをして頂きます。

〔小規模保育所（仮称）きたやまと保育園が来年4月に開園〕

仮称きたやまと保育園がグルメシティのあった場所で、19人規模の小規模保育園ができるというものです。きたやまと保育園が4月に開園することで、市内の小規模保育園は5カ所になります。

生駒市の定員と待機児童数ですが、私が市長に就任してからの4年間で定員は、きたやまと保育園を入れて241人増えることとなります。それだけ増やしていますが、待機児童の数はむしろ増えています。現在132人で、来年の4月1日には、減少するとは思いますが、現在調整をしているところです。定員は大きく増やしていますが、待機児童数が減っていないというのが実情です。

もう一つの課題としては、子どもを新たにあずかるスペースはありますが、保育士が十分いないので、施設を活用仕切れていないところがあり、保育士確保のために、資格を持っている潜在保育士をもう一度保育園に戻ってもらうための相談会を昨年度から開催しています。それによって昨年度は17名を採用し17人の子ども達の入園に繋がりました。今年度は16人の応募があり4名採用し、定員増に繋がりたいと思います。

【 質疑応答 】

〔風しん予防接種費用の助成〕

記者 風しんのワクチンの接種補助の件ですが、市長の思いは。

市長 妊婦さんが風しんにかかり子どもに障がいが出ることが、全国的に大きな問題としてクローズアップされています。特に予防接種を受けていない30～50歳代の男性、配偶者から風しんをもらい子どもにうつるということを避けれるものならしっかりと防ぎたいという思いです。MRワクチンが十分でないという状況で助成をどこまでするのかという問題もありますが、実際に障がいを持って生まれる子どもを防げるものなら防ぎたいという思いで、いろいろ工夫して、こういう形の助成となりました。

風しんで障がいが残ったという事例はメディアでも沢山出ており、社会的な関心も高く、生駒市内でもそういう声が出てきているので、そういう声に応えたいということです。

記者 市内でも風しんの事例はありますか。

市担当者 奈良県内の発生状況ですが、今年に入って累積患者数が7人おられます。45週以上は1人です。生駒市内や各市町村別のデータについては県では公表できないということでわかりません。

市長 大阪、兵庫、京都でも感染が増えているとのことなので、奈良はまだそこまで患者数はいませんが、収束するという事は聞いていないので、事前にこういう処置をすることは意義があると思っています。

記者 抗体価が低いという表現は分かりにくいのですが、免疫が十分でないということですか。

市担当者 免疫がない、又は少ないということです。

記者 この助成制度の県内での事例はありますか。

市担当者 県内の市では天理市、五條市がされていますが、ともに抗体検査なしで助成しています。抗体検査を義務付けているところは、市ではありませんが、川西町でしています。

市長 天理市と五條市は、数年前に風しんが流行ったときの助成制度がそのまま残っているというこ

とです。生駒市でもその時に助成制度を作りましたが、毎年流行るということではなかったので一度止めています。その時はMRワクチンが十分にあったので、条件なしに接種すれば助成をしていました。今回はMRワクチンが足りないということで、抗体検査をしてから助成するということになりました。

記者 抗体検査をして接種するという事は珍しいことではないんですね。

市長 大阪にもいくつかあり、関東でもあります。風しんが流行っているところでは結構あります。奈良県内の12市では初。

記者 助成の内容ですが、31年3月31日で一旦止めてしまうということですか。31年度も続ける予定はありますか。

市担当者 今年末で一旦終わらせて、来年度は流行の状況を見て検討します。

市長 今年度は緊急的に対応しましたが、来年度も収束しなければ対応していきたいと思ひますし、ワクチンが潤沢にあるようになれば、助成制度の内容も見直しすることもあります。

記者 生駒市は大阪に通われている方も多いいと思ひますが、そういうことも助成の内容について検討されたりはしましたか。

市長 大阪は奈良より感染者数が増えているということもあるので、大阪に行っている人も多いい生駒市は県内の他のところよりリスクが高いのかもしれない。大阪の方でも同様の助成が出てきておりますので、先んじてすることは意味があると思ひます。

記者 抗体検査はどこの医療機関でも受けられるんですか。

市担当者 市内では20の医療機関、内科のほぼ全部で受けられます。

記者 ワクチンを接種できるのはどこか指定はあるのですか。

市担当者 ワクチンがあればどこでも受けられます。

市長 ワクチンが手に入りやすく、病院でもワクチンがないので打てませんという所が出てきているので、市立病院でも他の診療所でもワクチンの確保に努力してもらっています。そういう状況なども情報提供していかなければいけないと思ひます。

市担当者 奈良県のホームページでも状況がわかりますし、生駒市もリンクしています。

記者 対象の年齢では31歳以上になるんですか。

市担当者 平成2年以前に生まれた方になります。

記者 31歳から39歳までは個別でしているので接種していない対象になるんですね。39歳以上は男性は接種してなくて、女性はしているということで、それに妊娠の可能性のある女性ということですね。

市担当者 はいそうです。

記者 結婚していない人は対象外だし、高齢の方も対象となりますか。

市担当者 女性の場合は、妊娠可能期間は限られてきますが、男性の場合は配偶者の年齢によりますので年齢制限はありません。

記者 人数はどれくらい想定していますか。

市担当者 100名程度です。

記者 それは、接種する人数かそれとも助成をする人数ですか。

市担当者 この制度を利用して助成する人数です。

記者 50万円という予算に含まれているということですね。

市担当者 はい。

記者 その助成で接種料金はカバーできますか。

市担当者 接種に要する費用の2分の1助成です。

記者 妊婦は受けられないですね。

市担当者 はい。接種を受けてからは2カ月間は妊娠しないようにということです。

記者 奈良では天理、五條とかがありましたが、補助をするしないは自治体の判断ですね。

市担当者 はい。

記者 奈良市は人口が多いけれども補助はないんですね。

市担当者 はい。奈良市は、補助はありませんが保健所を設置していますので、抗体検査は県と同じ制度で補助しています。

記者 抗体検査は本来いくらですか。

市担当者 6千円程度です。

記者 検査は医療機関へ直接行って無料で受けられるのですか。

市担当者 事前に県に申込みをし、受診券をもらい、指定の医療機関で検査してもらうことになります。

記者 市の補助のほうは。

市担当者 一旦支払ってもらい市に請求してもらいます。

〔小規模保育所（仮称）きたやまと保育園が来年4月に開園〕

記者 保育所開設の資料の数字の整合ですが。

市長 二つ目の表の31年度と28年度の定員の差が82名で、3つ目の表の28年度開園のもり保育園、阪奈中央こぐま園、にじ保育園、いちぶちどりキッズをたすと、159名となり、合計が241名の増ということになります。

記者 資料の3つ目の表は全て私立ですね。

市長 全て私立です。

3. その他

〔いこま市民パワー〕

記者 12月からの電力料金の話ですが、市として公表するのもしないのか。また、料金を変えるのか。また、それを公表するつもりがあるのかどうか、教えてください。

市長 今まで公表してきたものは同じように公表していきます。

記者 料金改定は初めてなので、過去の例もないのでどうするのかということを知っているんですが。

市長 市が買う値段ですね。

記者 12月改定すること。

市長 金額については隠すものではないので出します。

記者 伺っているのは、自ら発表するのか、情報公開で請求しなければならないかということなんです。

市長 これだけ皆さんに注目されているものでしたら、決まったらいずれかの形で出したいと思えます。

記者 決まったか決まってないとも言えないですか。

市長 まだ、最終的には決まっています。

記者 変える、変えないとも言えないのですか。

市長 今この場では言えません。

記者 電力料金は入札すれば開札で結果が出ますが、生駒市では電力料金が4億円規模と大きいので、また、市議会からも付帯意見等ももらっているので、透明性をきちんとすべきと思いますが。

市長 決まったものはきちんと出します。出し方は担当課と調整します。

記者 決まったら出すということですね。

市長 しかるべきタイミングで、しかるべき方法で出します。ホームページに載せるとか。

〔ふるさと納税〕

記者 総務省からの指摘がありますが、どうですか。

市長 「生駒市原産」という基準をより厳格にすべきという通達なので、指摘のあったものは対象から外しています。ふるさと納税を総務省がどのように考えているかよく理解できないところもあり、制度自体が今のままでいいのかということは疑問に思っています。

記者 何品減らして何品になりましたか。

市長 10品もないくらいです。詳しくは担当課にお願いします。

〔小中学校へのエアコン設置〕

記者 エアコン設置の国の補助金はどのくらいになるのか。

市担当者 まだ出ていません。11月末までには出るということですが。

記者 生駒市は補助のあるなしに拘わらず設置するというスタンスでしたが、市の負担は減るんですか。負担額はいつわかりますか。

市長 市の負担は減ると思いますが、文科省の補助金についてはより、例えば3分の1補助と言っても実際の補助金額は経費の対象となる範囲が限定的だったりして、5分の1になることもありますので。11月下旬に出ます。

記者 それにより予算の補正はしますか。

市担当者 予定より大きく少なければ他に財源をカバーする必要がありますので、補正を考えることになります。

副市長 先般の補正は、国の補助金を見込んでいます。

(了)